

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和6年第37週の発生動向

□ トピックス

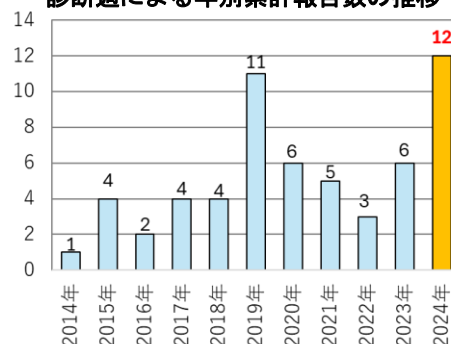
・劇症型溶血性レンサ球菌感染症

(全数報告の感染症)

37 週までの診断週による累計報告数が 12 例となった。1999 年以降最も多くなった 2019 年 (11 例) の報告数を超え、第 37 週時点で過去最多を更新した。

今年は、例年と比較し報告数が特に多いため今後の動向に注意が必要である。

【劇症型溶血性レンサ球菌感染症】
診断週による年別累計報告数の推移



※2024 年は第 1 週～第 37 週まで

・手足口病 (定点把握対象疾患)

第 37 週の県内定点当たり報告数が 5.6 となり、流行警報レベル開始基準値(5)を超えた。詳細後述。

□ 全数報告の感染症 (37 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 4 例。

3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。4 類感染症：日本紅斑熱 1 例。

5 類感染症：ウイルス性肝炎 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、梅毒 5 例、播種性クリプトコックス症 1 例、百日咳 1 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	女	肺結核	左上葉結節影
			70歳代	男	腸結核	貧血、食欲不振、全身倦怠感
		延岡	50歳代	男	無症状病原体保有者	なし
			70歳代	女	結核性胸膜炎	胸水
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	20歳代	男	—	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱、O157(VT2)
4類	日本紅斑熱	小林	80歳代	女	—	発熱、発疹、肝機能異常
5類	ウイルス性肝炎	日南	40歳代	男	B型	肝機能異常、黄疸、関節痛
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	延岡	30歳代	男	—	ショック、腎不全、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹
	梅毒	宮崎市	20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			70歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	硬性下疳
			90歳代	女	無症状病原体保有者	なし
		日南	40歳代	男	無症状病原体保有者	なし
		小林	40歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹
	播種性クリプトコックス症	延岡	80歳代	女	—	胸部異常陰影
	百日咳	日向	20歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 863 人(定点当たり 22.9)で、前週比 109%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎及び手足口病で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 161 人(2.8)で、前週比 90%と減少した。延岡(7.1)、小林(5.8)、都城(3.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は 15 歳未満が全体の約 3 割を占めた。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

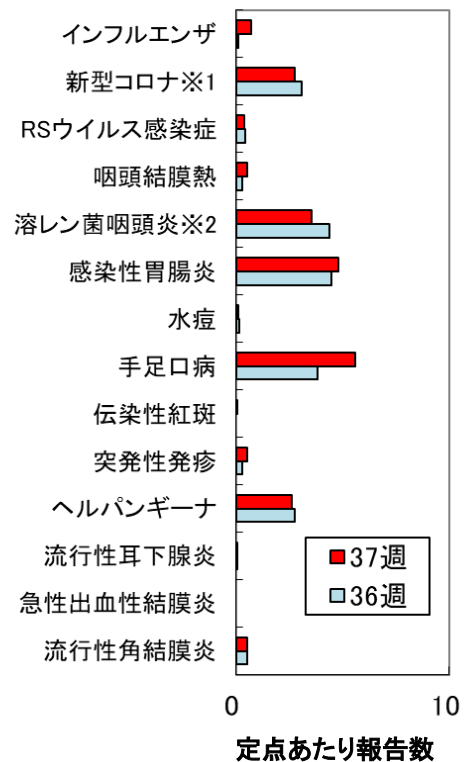
報告数は 128 人(3.6)で、前週比 82%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.4)の約 2.6 倍であった。延岡(7.8)、宮崎市(5.0)、日南(4.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は 5 歳から 7 歳が全体の約半数を占めた。

【手足口病】

報告数は 202 人(5.6)で、前週比 147%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.0)の約 2.8 倍であった。日南(8.7)、宮崎市(8.6)、延岡(8.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は 1 歳から 3 歳が全体の約 7 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

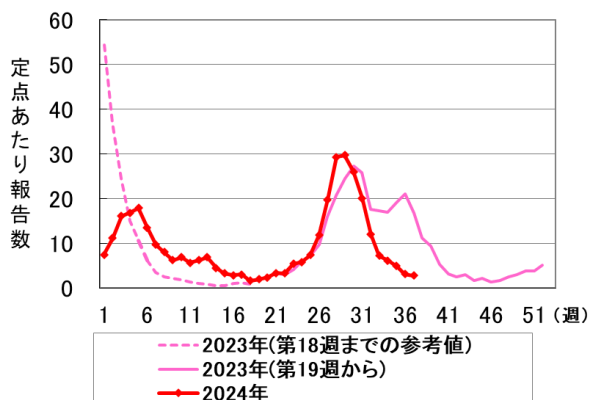
《前週との比較》



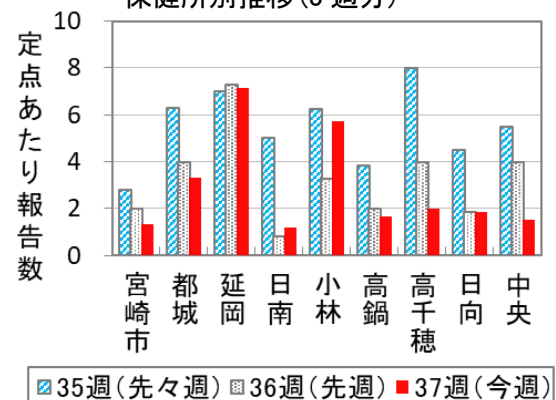
※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

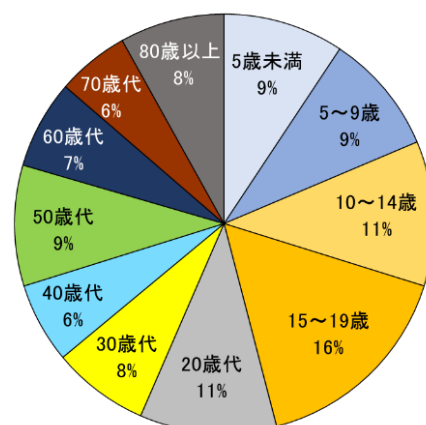
新型コロナウイルス感染症 発生状況



新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3 週分)

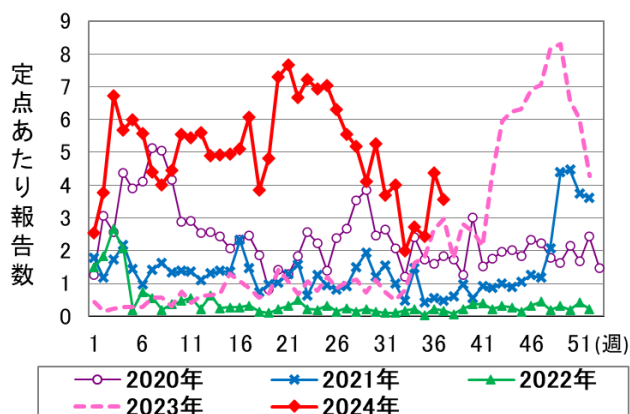


新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第 37 週)

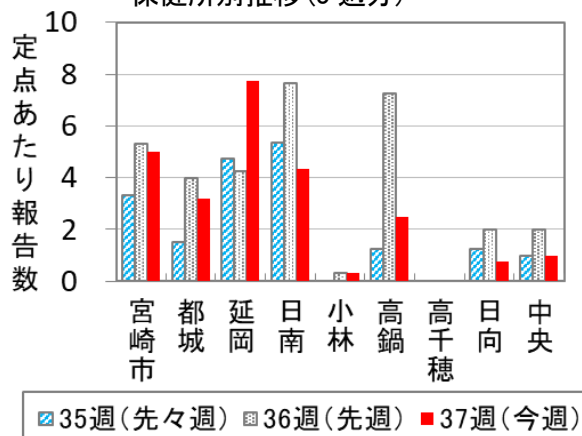


※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

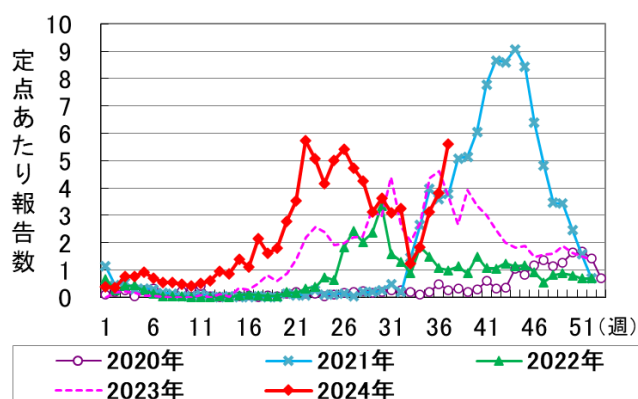
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



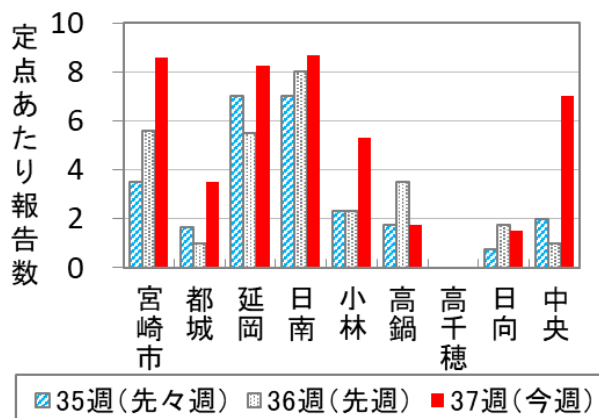
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移(3週分)



手足口病 発生状況



手足口病 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：高鍋(3例)、宮崎市(1例)、日向(1例)保健所から報告があった。年齢は5～9歳が2例、0～4歳が1例、10～14歳が1例、15～19歳が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	手足口病(8.6)
都城	なし
延岡	手足口病(8.3)
日南	手足口病(8.7)、ヘルパンギーナ(8.3)
小林	手足口病(5.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	手足口病(7.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・手足口病(5)
- ・ヘルパンギーナ(6)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和6年9月16日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	10歳代	男	2024.08.27	急性胃腸炎(下痢、腹痛)、発熱	便	2024.09.04

★ウイルス 報告なし

🇯🇵 全国 2024 年第 36 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	260 例			
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	128 例	腸チフス 2 例
4類感染症	E型肝炎	13 例	エキノкокクス症	1 例	コクシジオイデス症 1 例
	重症熱性血小板減少症候群	1 例	つつが虫病	5 例	デング熱 10 例
	日本紅斑熱	18 例	日本脳炎	1 例	マラリア 1 例
	レジオネラ症	61 例	レプトスピラ症	9 例	
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 46 例
	急性弛緩性麻痺	1 例	急性脳炎	10 例	クリプトスポリジウム症 3 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	19 例	後天性免疫不全症候群 16 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	侵襲性肺炎球菌感染症	14 例	水痘(入院例) 8 例
	梅毒	211 例	播種性クリプトкокクス症	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例
	百日咳	89 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例	

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 105%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症であった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 32,443 人(6.6)で前週比 88%と減少した。宮城県(13.7)、岩手県(13.4)、青森県(12.7)、山形県(12.7)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 3 割を占めた。

手足口病の報告数は 22,485 人(7.2)で前週比 126%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.8)の約 4 倍であった。富山県(17.5)、滋賀県(11.3)、宮城県(11.3)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 5 歳が全体の約 8 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2024 年 8 月>

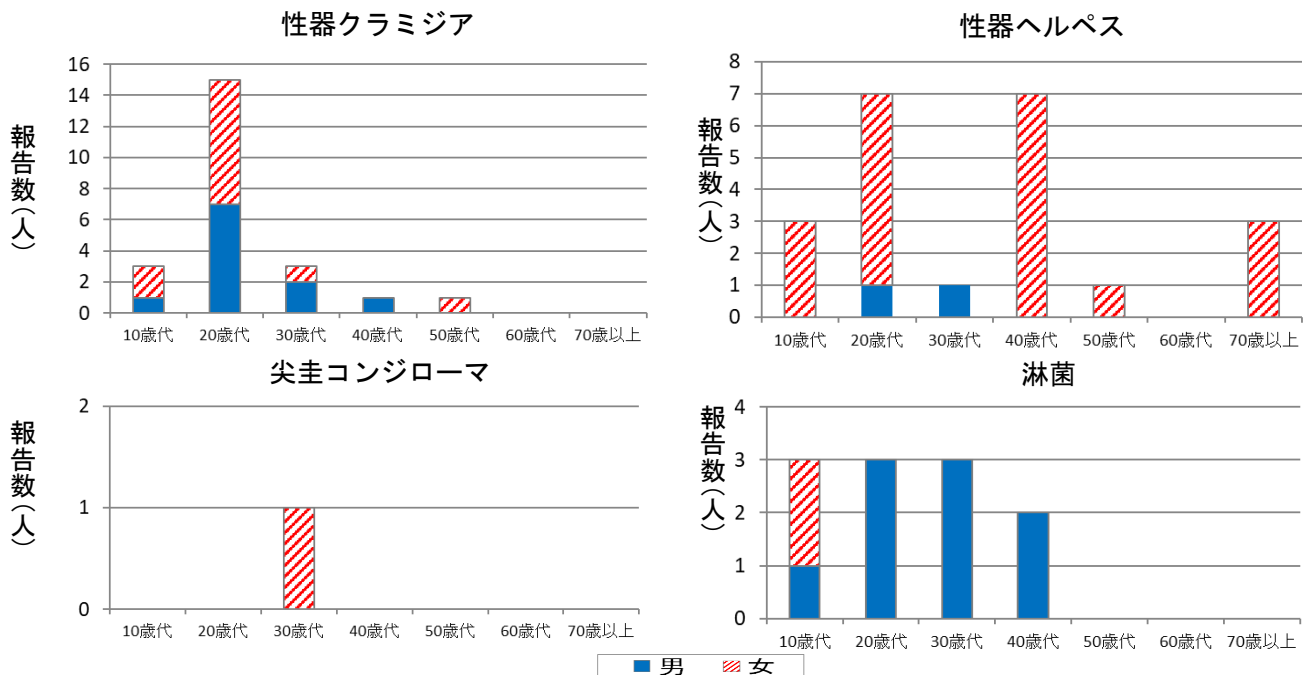
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は57人(4.4)で、前月比136%と増加した。また、昨年8月(3.0)の約1.5倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数23人(1.8)で、前月と同程度、昨年8月と同率であった。
20歳代が全体の約7割を占めた。(男性11人・女性12人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数22人(1.7)で、前月及び昨年8月の2.2倍であった。
(男性2人・女性20人)
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月の約0.3倍、昨年8月の約0.5倍であった。
(女性1人)
- 淋菌感染症：報告数11人(0.85)で、前月の約1.8倍、昨年8月の約2.8倍であった。
(男性9人・女性2人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,614人(4.7)で、前月比95%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,523人(2.6)で前月比94%、性器ヘルペスウイルス感染症848人(0.87)で前月比99%、尖圭コンジローマ498人(0.51)で前月比88%、淋菌感染症745人(0.76)で前月比97%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は23人(3.3)で、前月比89%と減少した。また、昨年8月(3.7)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数22人(3.1)で、前月の約0.9倍、昨年8月の約0.8倍であった。70歳以上が全体の7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で前月と同率であった。(昨年8月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,393人(2.9)で、前月比96%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,331人(2.8)で前月比97%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症54人(0.11)で前月比69%、薬剤耐性緑膿菌感染症8人(0.02)で前月比100%であった。

疾病名		第36週	第37週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	7	40	1		1	38					
	定点当り	0.12	0.69	0.06	0.00	0.14	7.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
新型コロナ ウイルス感染症	報告数	179	161	21	33	50	6	23	10	4	11	3
	定点当り	3.09	2.78	1.31	3.30	7.14	1.20	5.75	1.67	2.00	1.83	1.50
RSウイルス 感染症	報告数	16	13	1	7			2			3	
	定点当り	0.44	0.36	0.10	1.17	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	11	19	10	3				1		3	2
	定点当り	0.31	0.53	1.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.75	2.00
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	報告数	157	128	50	19	31	13	1	10		3	1
	定点当り	4.36	3.56	5.00	3.17	7.75	4.33	0.33	2.50	0.00	0.75	1.00
感染性胃腸炎	報告数	161	173	63	33	2	7	24	17		19	8
	定点当り	4.47	4.81	6.30	5.50	0.50	2.33	8.00	4.25	0.00	4.75	8.00
水 痘	報告数	6	3	2		1						
	定点当り	0.17	0.08	0.20	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	137	202	86	21	33	26	16	7		6	7
	定点当り	3.81	5.61	8.60	3.50	8.25	8.67	5.33	1.75	0.00	1.50	7.00
伝染性紅斑	報告数		1	1								
	定点当り	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	10	19	6	1	4	2	2			4	
	定点当り	0.28	0.53	0.60	0.17	1.00	0.67	0.67	0.00	0.00	1.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	99	95	29	3	15	25	4	8		10	1
	定点当り	2.75	2.64	2.90	0.50	3.75	8.33	1.33	2.00	0.00	2.50	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	1		1							
	定点当り	0.03	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性 結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	3	3	2	1							
	定点当り	0.50	0.50	0.67	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	4	5	1					3		1	
	定点当り	0.57	0.71	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2024年 第1週 ～37週 保健所受理分)

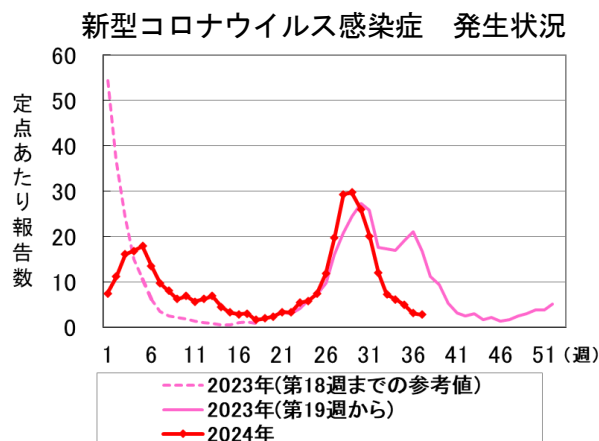
2類感染症	結核	80例(4)	
	腸管出血性大腸菌感染症	31例(1)	
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎 1例 重症熱性血小板減少症候群 7例
	つつが虫病	14例	日本紅斑熱 9例(1) レジオネラ症 10例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎 1例(1) カルバペネム耐性腸内細菌感染症 4例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 13例(1) 後天性免疫不全症候群 2例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4例	侵襲性肺炎球菌感染症 13例 水痘(入院例) 4例
	梅毒	114例(5)	播種性クリプトコックス症 3例(1) 破傷風 2例
	百日咳	40例(1)	

()内は今週届出分、再掲

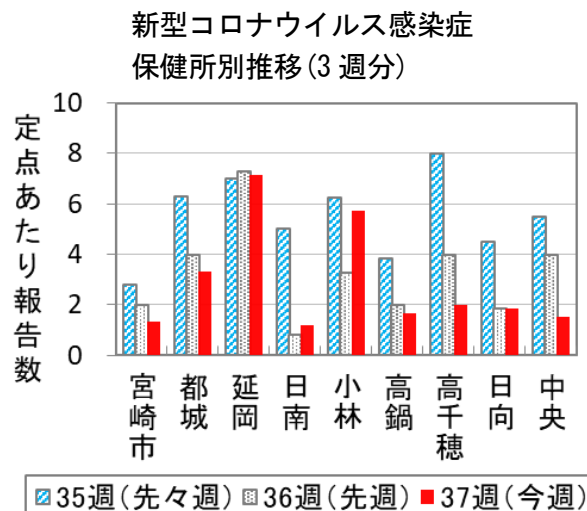
新型コロナウイルス感染症情報《県内第 37 週、全国第 36 週（再掲）》

□ 県内第 37 週 新型コロナウイルス感染症発生動向

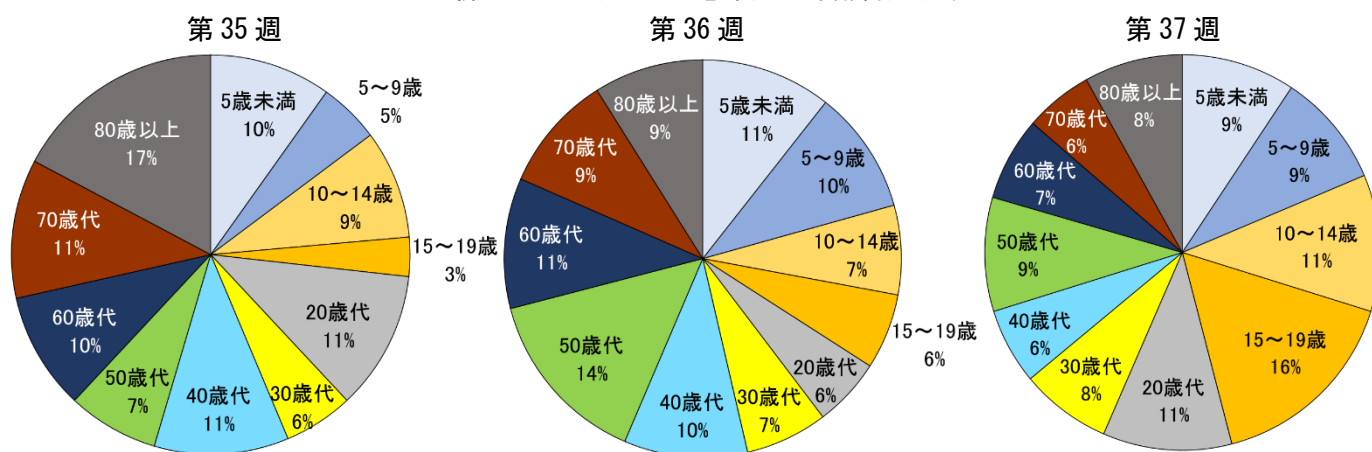
9 月 9 日～9 月 15 日までの 1 週間で 161 人(2.8)の報告があった。前週比 90%と減少し、延岡(7.1)、小林(5.8)、都城(3.3)保健所管内からの報告が多かった。



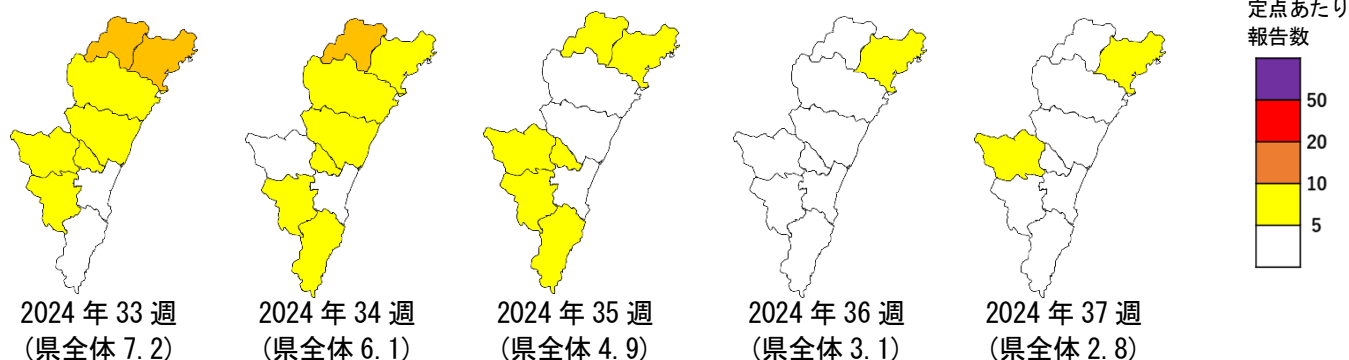
※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値



新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ



保健所別新型コロナウイルス感染症流行マップ 2024 年第 33 週～2024 年第 37 週



* 県独自の基準によるもの

□ 全国第 36 週 新型コロナウイルス感染症発生動向

9 月 2 日～9 月 8 日までの 1 週間で 32,443 人(6.6)の報告があった。前週比 88%と減少で、宮城県(13.7)、岩手県(13.4)、青森県(12.7)、山形県(12.7)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 3 割を占めた。